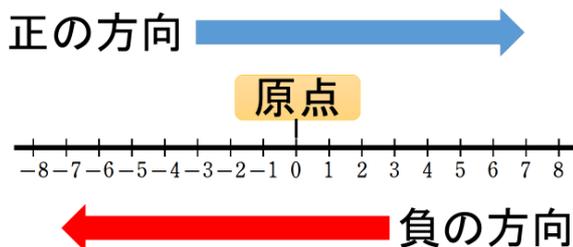


＜群馬県教育委員会 オンラインサポート授業＞  
 数 学 中学1年「正の数と負の数② ～数の大小～」【要点資料】

＜めあて＞数の大小関係は、どのように表すことができるか。

数直線



《用語の確認》

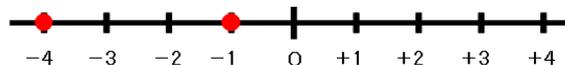
原点・・・数直線で0が対応している点  
 正の方向・・・数直線の右の方向  
 負の方向・・・数直線の左の方向

数直線を使って、数の大小を考えよう。

2つの数-4と-1の大小



数直線上では、右側にある数ほど大きく、左側にある数ほど小さい。

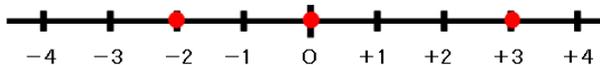


-4と-1を比べると、数直線上では-4が左、-1が右にあるから、-1の方が大きい。

-4は-1より小さい  $-4 < -1$   
 -1は-4より大きい  $-1 > -4$

3つの数の大小を、不等号を使って表すには、どうしたらよいでしょうか。

3つの数0, -2, +3の大小



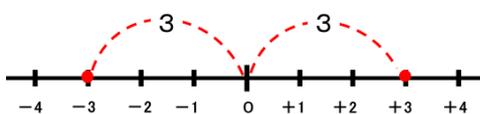
0は-2より右にあり、+3は0より右にある。 $-2 < 0$ 、 $0 < +3$ をまとめて、 $-2 < 0 < +3$



小さい順に並べると-2、0、+3だから、 $-2 < 0 < +3$   
 大きい順なら、 $+3 > 0 > -2$

絶対値

⇒原点からある数に対応する点までの距離



絶対値  
 $-3$   $+3$  0の絶対値は、0

正の数では、絶対値が大きいほど大きくなります。  
 負の数では、どうなりますか。



-11の絶対値11は、-8の絶対値8より大きい。 $-11 < -8$ だから、負の数では、絶対値が大きいほど小さくなると思う。

＜まとめ＞

- ◆数の大小は、数直線や絶対値で考え、不等号を使って表すことができる。
- ◆正の数は0より大きく、負の数は0より小さい。
- ◆正の数では、絶対値が大きいほど大きい。負の数では、絶対値が大きいほど小さい。